

グループ名 ・代表者名	コンゴの性暴力と紛争を考える会 華井 和代さん	助成金額	60万円
連絡先など	congomm2016@gmail.com		
助成のテーマ	コンゴにおける資源採掘と人権侵害の実態調査		

【調査研究の概要】 本研究は、世界有数の資源産出国であるコンゴ民主共和国（以下、コンゴ）において、資源採掘と地域住民への人権侵害が結びついている現状を明らかにし、世界有数の資源消費国である日本の政府、企業、市民が責任ある行動をとるための提言を行うものである。

2018年度は、鉱物が紛争の資金源になることを防止する目的だった紛争鉱物取引規制がコンゴ東部の紛争状況におよぼした影響を、国連・国際機関や現地のメディア、NGO等が発信する情報と統計資料、ルワンダで資源取引規制に関わる機関や性暴力被害者への聞き取り調査から明らかにした。その上で、紛争解決に向けて日本の政府、企業、市民がとるべき方策を当事者とともに議論する機会を設けた。

5月にはコンゴ出身の世界銀行職員を招いてセミナーを開催し、コンゴへの援助について議論した。9月にはベルギーで「コンゴの安全保障と経済発展」を主題とする国際会議を開催し、コンゴ研究者・実務家と情報共有を行った。さらに、研究協力者であるコンゴ人婦人科医のデニ・ムクウェゲ医師がノーベル平和賞を受賞して以降は、医師の活動を描いた映画『女を修理する男』の上映会や、コンゴの紛争と性暴力に関する講演会、テレビ番組において計16回の講演を行った他、新聞や雑誌などでの取材を通じて本問題を解説する機会を得た。

【調査研究の経過】 2018年4月38日：アジア・アフリカ研究イニシアティブ学術集会での研究発表

5月19日：世界銀行職員 ノエル・ツィアニ氏講演会「紛争影響地域の住民を支える開発援助のあり方」開催

9月24-27日：ルワンダでの現地調査実施

9月29日：ブリュッセルにて「コンゴの安全保障と経済発展」国際会議を開催

10月6日：ムクウェゲ医師のノーベル平和賞受賞に関する記者会見

【今後の展望など】 これまでの調査結果によって、鉱物の採掘・輸送を管理する資源ガバナンスおよび、性暴力の加害者を正當に裁く現地のガバナンスに問題がある限り、紛争鉱物取引規制という経済的手段によって紛争経済を転換することは不可能であるという結論に達した。2016年末以降、コンゴ政府による統治は東部の紛争地域にますます及ばなくなり、医療、教育、司法などの公共サービスが住民に届かなくなっている。こうした現状を踏まえて2019年度は、現地のガバナンスに注目した調査研究を実施する。

同時に、ムクウェゲ医師のノーベル平和賞受賞が、日本における関心の高まりをもたらすのみならず、コンゴにおける性暴力を止めるための具体的な活動が始まるきっかけとなることを切に願い、調査研究および社会啓発活動を続けていく。

会計報告書の概要（金額単位：千円）			充当した資金の内訳		
支出費目	内 訳	支出金額	高木基金の 助成金を充当	他の助成金 等を充当	自己資金
旅費・滞在費	渡航費 200千円×3回、宿泊費 10千円×10日×3回、日当 6千円×10日×3回、車両費 3万円×10日×2回	379	379	0	0
資料費	書籍、論文、資料購入費	31	31	0	0
会議費	180千円×2回	3	3	0	0
印刷費	会議資料印刷費 10円×500部	5	0	0	5
協力者謝礼等	会議講演謝金 15千円×1名、3万円×2名 通訳謝金 50千円×2回	15	15	0	0
人件費	運営協力謝金 1千円×20時間×3名	190	115	0	75
その他	文房具、消耗品	116	15	0	101
合 計		739	558	0	181

参考文献（ウェブサイトや書籍、成果物など）

- ・東洋経済オンライン 米川正子「性的テロを告発したノーベル受賞医師の凄み」 <https://toyokeizai.net/articles/-/242000>
- ・東洋経済オンライン 華井和代「コンゴの性暴力を止める責任は日本にもある」 <https://toyokeizai.net/articles/-/243038>
- ・東洋経済オンライン 米川正子「性暴力の大罪を犯す腐敗国家が減びない真因」 <https://toyokeizai.net/articles/-/256711>
- ・imidas 米川正子「戦争と平和のリアル第29回 残虐を極めるコンゴの性暴力被害」 https://imidas.jp/sensoutoheiwa/?article_id=l-73-030-18-12-g755

高木仁三郎市民科学基金
2018年度成果発表会
2019年7月14日

コンゴにおける 資源採掘と人権侵害の実態調査

コンゴの性暴力と紛争を考える会 (ASVCC)
副代表 華井和代



自己紹介 コンゴの性暴力と紛争を考える会

◆設立 2016年3月

◆メンバー

- 代表 米川正子 (筑波学院大学)
- 副代表 華井和代 (東京大学)
- アドバイザー ジャン＝クロード・マスワナ (立命館大学)
- アドバイザー 秋林こずえ (同志社大学)
- ユースメンバー 12名 (立教大学、東京大学、中央大学、慶應大学など)

◆活動目的

ノーベル平和賞受賞者のコンゴ人産婦人科医デニ・ムクウェゲ医師の活動を描いたドキュメンタリー映画『女を修理する男』などを議論の題材として活用しながら、**紛争下における性暴力と資源取引によるグローバル経済とのつながりを検証し、問題解決に向けた日本の政府、企業、メディア、NGO、一般市民の意識向上に寄与する。**



ご寄付のお願い

ドキュメンタリー映画『女を修理する男』などを鑑賞して考える
紛争下の性暴力と私たちの暮らしの関係

コンゴの性暴力と紛争を考える会
Association on Sexual Violence and Conflict in DR Congo (ASVCC)

私たちの活動
ノーベル平和賞受賞者のコンゴ民主共和国 (コンゴ) 人の婦人科医デニ・ムクウェゲ氏の活動を描いたドキュメンタリー映画『女を修理する男』を議論の題材として活用しつつ、紛争下の性暴力とグローバル経済とのつながりを検証しています。そのうえで政府機関、企業、NGO、メディア、一般の方を対象とする講演会を開催し、問題解決に向けた日本社会の意識向上を目指しています。

ご寄付をお願いします
*いただいたご寄付は、下記の用途で活用させていただきます。
ムクウェゲ氏の活動支援
日本でのイベント開催 (映画上映会・講演会など)
コンゴ人研究者・実務家との会議開催
書籍出版・報告書作成・資料翻訳

〒100-8302 東京都千代田区千代田 1-1-1
三井東京ビル 銀行 講義支店
電話 0469236
コンゴの性暴力と紛争を考える会
*お振込の際は、お振込先として「ASVCC」をご入力ください。

 <p>代表：米川正子 筑波学院大学 准教授 元UNHCRコンゴ東部丁事務所長 紛争、難民、人道支援研究</p>	 <p>副代表：華井和代 東京大学 講師 コンゴ東部の紛争資源経済と先進国の消費者市民社会のつながりを研究</p>
 <p>アドバイザー： ジャン＝クロード・マスワナ 立命館大学 教授 アフリカ：アジアの開発経済研究</p>	 <p>アドバイザー：秋林こずえ 同志社大学大学院 教授 婦人国際平和協会の会長 ジェンダーと安全保障研究</p>

【運営協力】
八角幸雄 (仏語翻訳)、大平和希子、小島千鶴、ASVCC-Youth

【事務局】
東京大学・華井和代研究室
東京都文京区本郷7-3-1 (担当：小坂井真季)

*お問い合わせ: congom2016@gmail.com
*活動の様子をWebで公開いたします
HP: <http://congom2016.wixsite.com/asvcc>
FB: <https://www.facebook.com/asvcc/>

QRコード:  
Homepage Facebook



これまでの主な活動：研究＋アドボカシー

3

2016年5月・6月・9月
「女を修理する男」
上映会＋講演会



2016年10月3日・4日
デニ・ムクウェゲ医師
講演会
「紛争鉱物と性暴力」



2017年2月27日
フォローアップセミナー



2017年7月30日
三須拓也氏講演会
「コンゴの危機、再び」



2017年11月4日
ブリュッセル
「コンゴの安全保障と
経済発展」国際会議



2017年12月11日
「コンゴの紛争資源問題
をめぐる
最新動向と展望」



2018年2月・5月
コンゴ人実務家の
来日講演会



2018年9月29日
ブリュッセル
「コンゴの経済発展
における組織の役割」



2018年12月
ノーベル平和賞
授賞イベント



2019年1月31日
ノーベル平和賞記念
フォーラム
「コンゴの課題を考える」



★上映会には約4000名、セミナーには計700名が参加

ムクウェゲ医師のノーベル平和賞受賞

◆紛争下の性暴力と闘う2人の人権活動家



コンゴにおける紛争

- ◆ 1996~1997年 第一次コンゴ紛争
- ◆ 1998~2003年 第二次コンゴ紛争
- ◆ 2003年 紛争「終結」

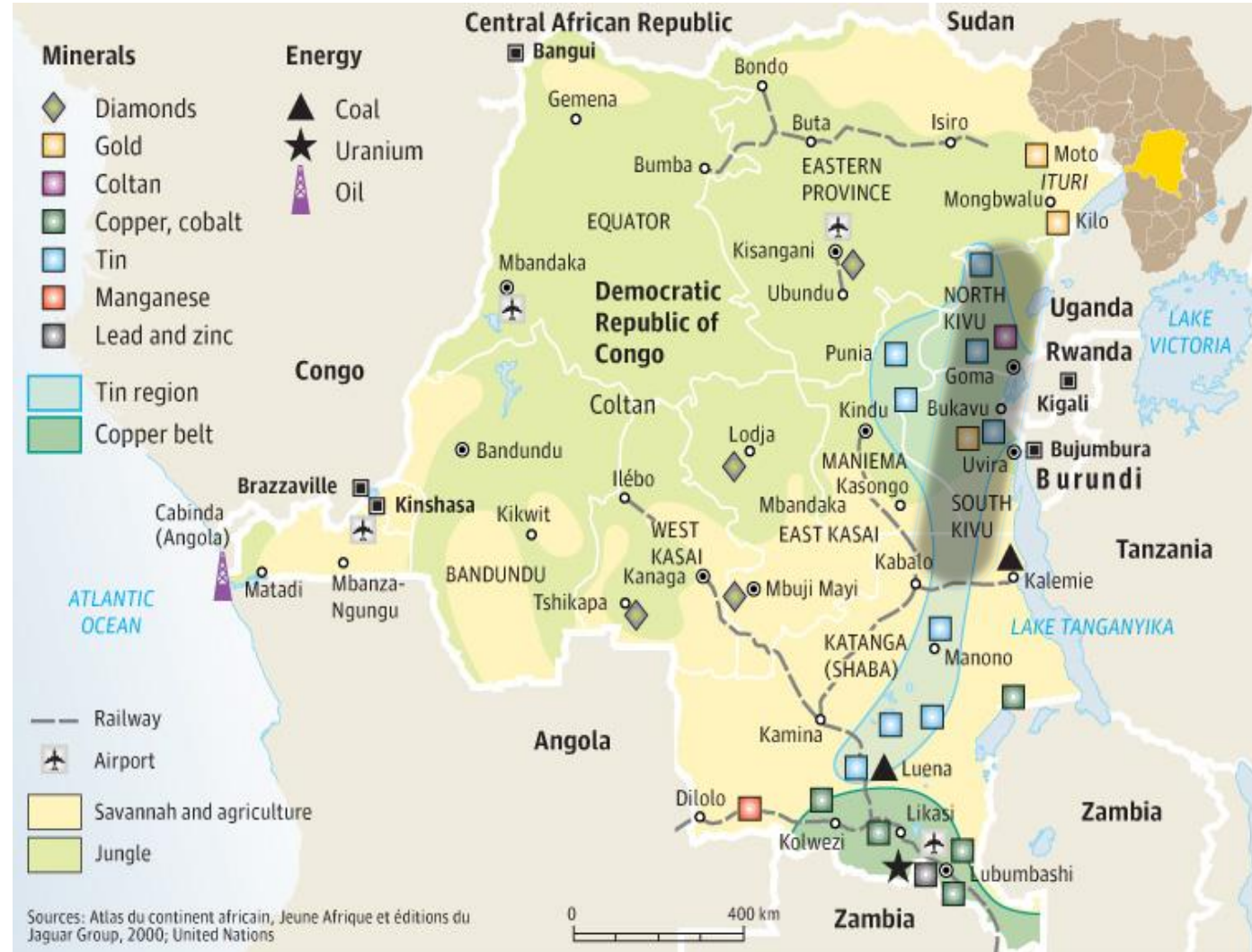
⇔ **コンゴ東部での紛争は続く**

* KEY

◆ 紛争鉱物 (3TG)

スズ (Tin)、タングステン (Tungsten)
 タantal (Tantalum/Coltan)、金 (Gold)

◆ 武装勢力と軍による住民への暴力



人権侵害の実態

- ◆ 劣悪な労働環境
- ◆ 児童労働
- ◆ 武装勢力と軍による暴力
- ◆ 性暴力（「世界のレイプ中心地」）
- ◆ 強制移動（難民／国内避難民）
- ◆ 第2次世界大戦後における世界最大数の死者

生存権・生活権の侵害



問い なぜコンゴの紛争は終わらないのか？

なぜ…

- ◆20年以上にわたって紛争が続くのか
- ◆資源が豊かな地域で人権侵害が多いのか
- ◆世界最大規模の国連PKOが駐留し続けても紛争を止められないのか

★コンゴにおける紛争の実態は多くの謎に包まれたまま

⇔実態を解明しなければ、紛争解決、人権侵害停止の策につながらない

- ➡**コンゴの内部と、コンゴを取り巻く国際社会で何がおきているのかを調査し、
コンゴ人研究者・実務家、日本の政府・企業・メディア・NGO・一般市民と議論する**

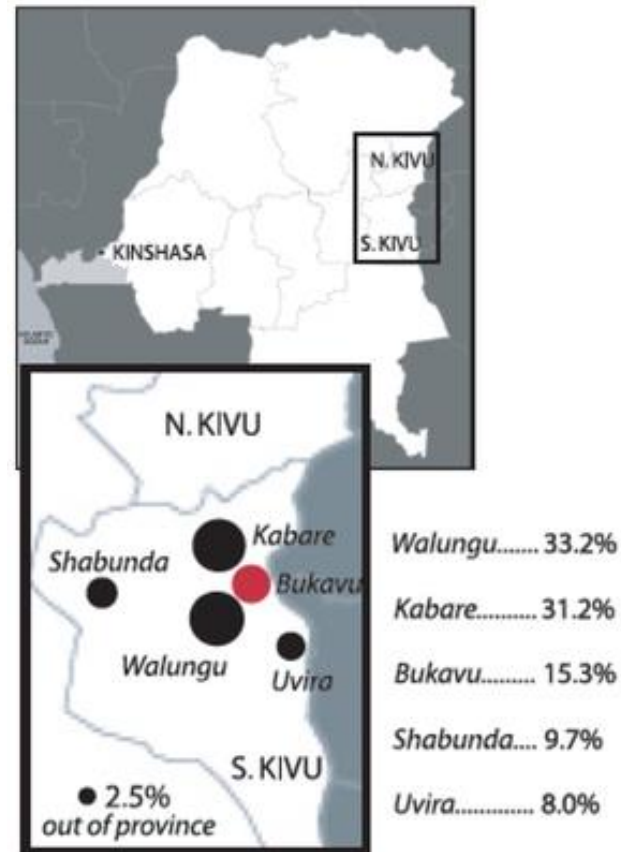
研究課題① 鉱物採掘と性暴力の関係性

- ◆ 鉱物が豊富な地域 & 性暴力の発生地

(Mukwege et al. 2009)

- ◆ 鉱山周辺の女性は性暴力に遭うことが多い (約3倍)
- ◆ 武装勢力のいる小規模手掘り 鉱山周辺はさらに多い

(Rustad et.al. 2016)



A



B

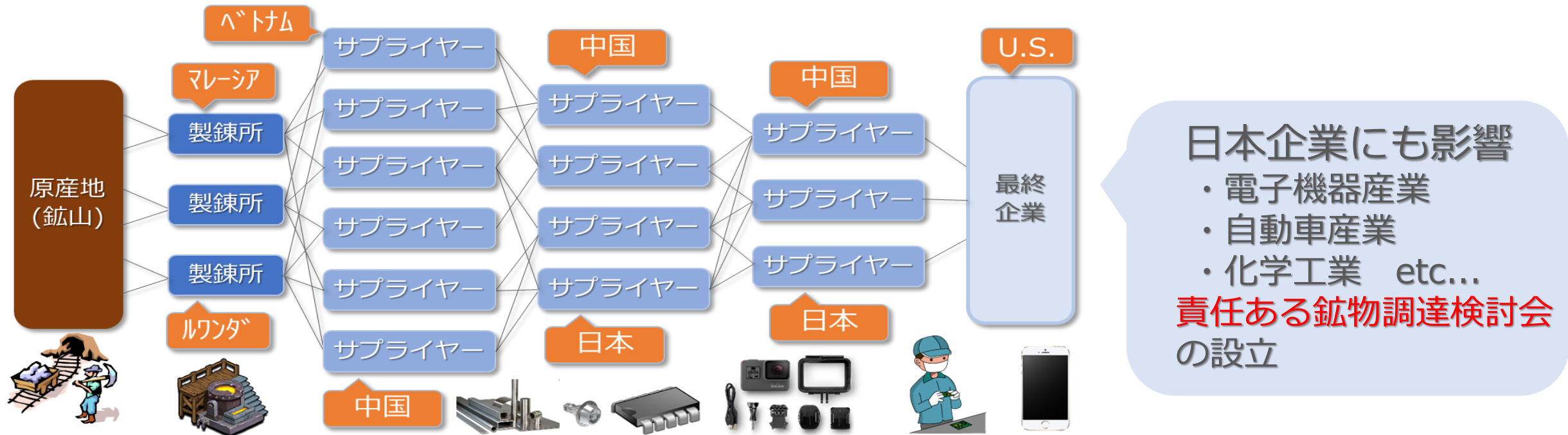
出典 : Mukwege, D.M., & C. Nangini (2009) "Rape with Extreme Violence: The New Pathology in South Kivu, Democratic Republic of Congo" *PLOS Medical* 6(12), e1000204. doi:10.1371/journal.pmed.1000204.

Rustad, S.A., G. Østby and R. Nordås [2016] "Artisanal mining, conflict, and sexual violence in Eastern DRC" *The Extractive Industries and Society* 3, pp.475-484.

研究課題② 紛争鉱物に関する国際社会の対応

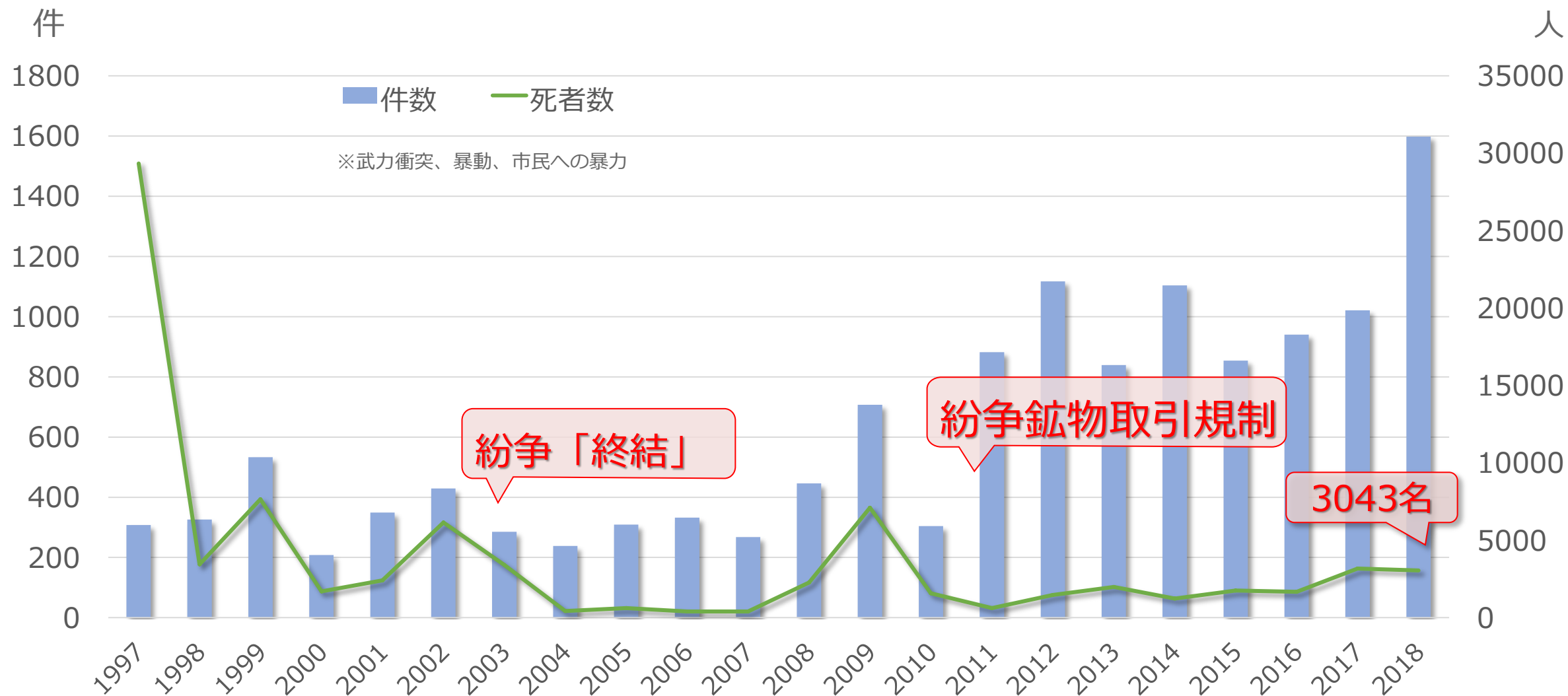
◆2010年 紛争鉱物取引規制の導入

- 2010年 OECDデューディリジェンス・ガイダンスの発表
- 2010年 アメリカ金融改革法（ドット・フランク法）1502条の制定
=紛争鉱物を使用する企業に**紛争鉱物調達調査**の実施を求める



日本企業にも影響
・電子機器産業
・自動車産業
・化学工業 etc...
責任ある鉱物調達検討会
の設立

研究課題③ コンゴの暴力発生状況



2018年度の調査研究内容

- ◆目的：コンゴ東部における**紛争資源利用と人権侵害の現状**、および、**紛争鉱物取引規制がおよぼした影響**を明らかにする

◆研究方法

- (1) 文献調査
 - 現地メディア、NGO、国連による報告書から情報を収集する
 - 既存研究での紛争鉱物取引規制への評価を整理する
- (2) 統計調査
 - Armed Conflict Location and Event Data (ACLED)
 - Peace Research Institute Oslo (PRIO) 等のデータを分析する
- (3) 聞き取り調査
 - **ルワンダの鉱物認証機関**（華井）
 - **コンゴ東部から周辺国に逃れた市民（難民）**（米川）
 - **ムクウェゲ医師** 計15回（マスワナ）
 - **コンゴ東部の性暴力被害者、元加害兵士**（研究協力者を通じて実施）

2018年度の調査研究の結論

1. 紛争鉱物取引規制の問題点 (日本・ルワンダでの聞き取り調査から)

- サプライチェーンの下流での取り組みと上流での実態のギャップ [👉スライド](#)
 - 上流の資源産出地域での認証システムの不備
- ➡ **資源ガバナンスの問題**

2. 不処罰がもたらす人権侵害の増加 (ムクウェゲ医師、コンゴ東部の聞き取り調査から)

- 政治混乱による性暴力の増加
 - 不処罰がもたらす倫理観の崩壊
- ➡ **政治的ガバナンスの問題**

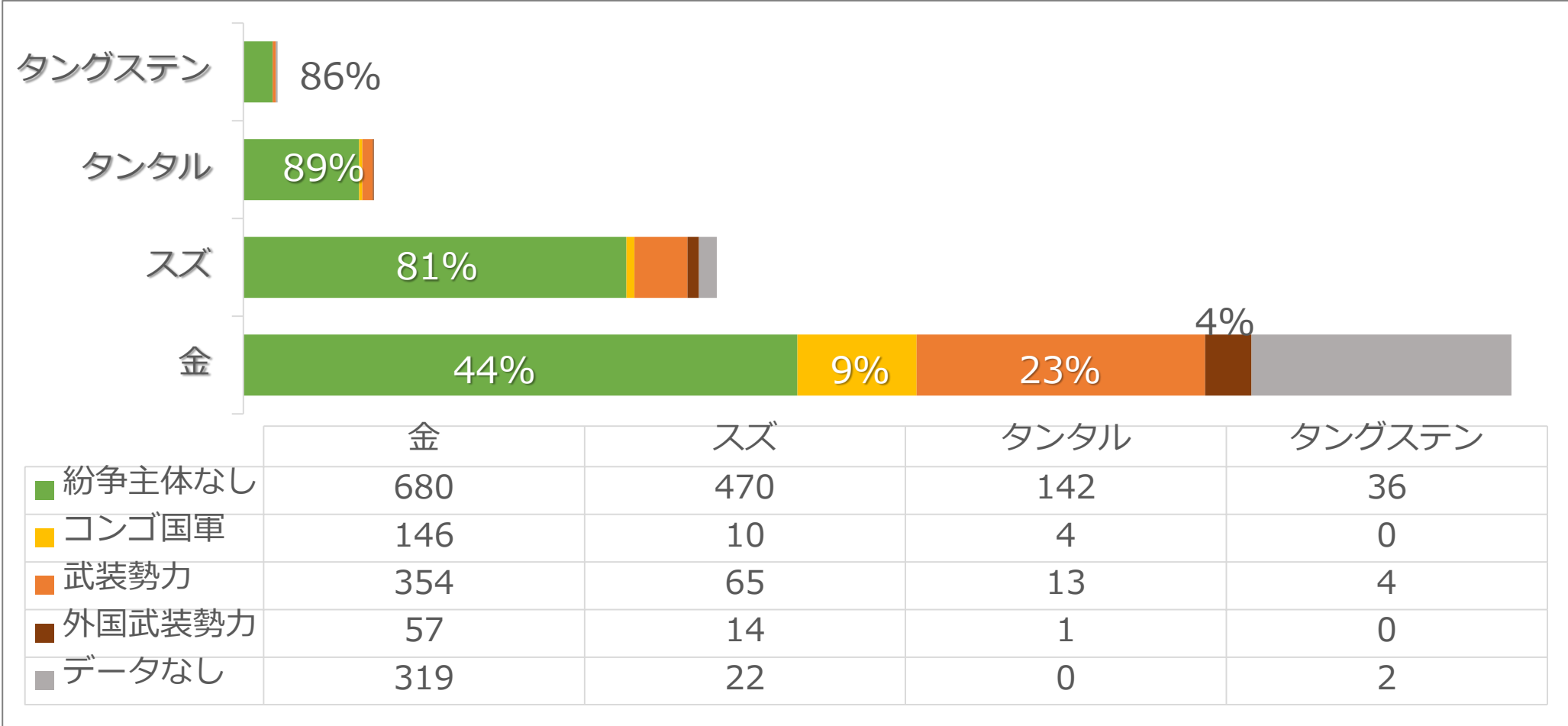
3. しかし、政府・市民社会ともに日本からの援助は**ガバナンスへの対処が不足**している

- ➡ **ノーベル平和賞での関心の高まりを機に改善を求めることが必要**

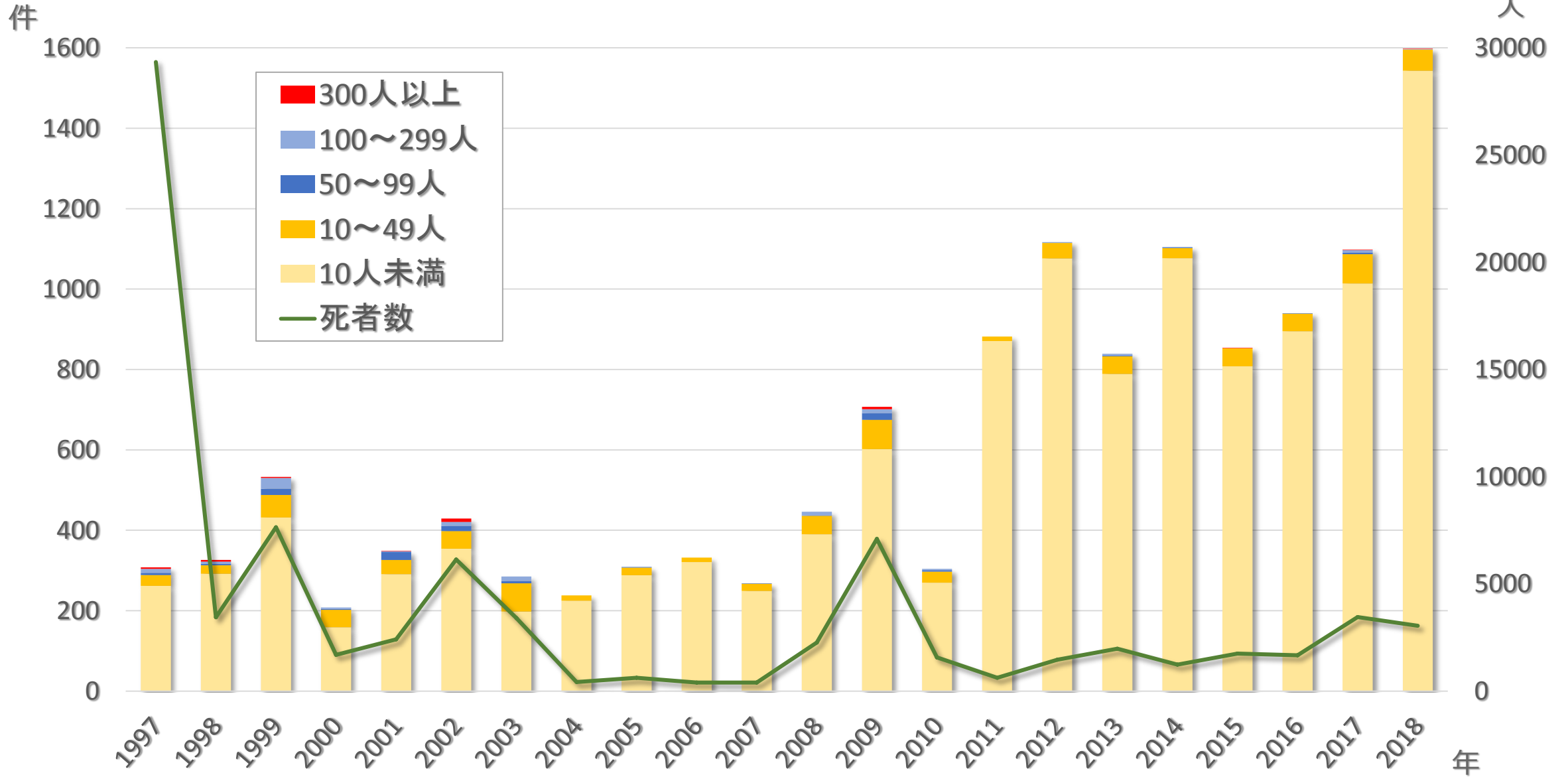
鉱山からの紛争主体の撤退

◆NGOの報告：3T鉱山の8割は紛争フリーとなる

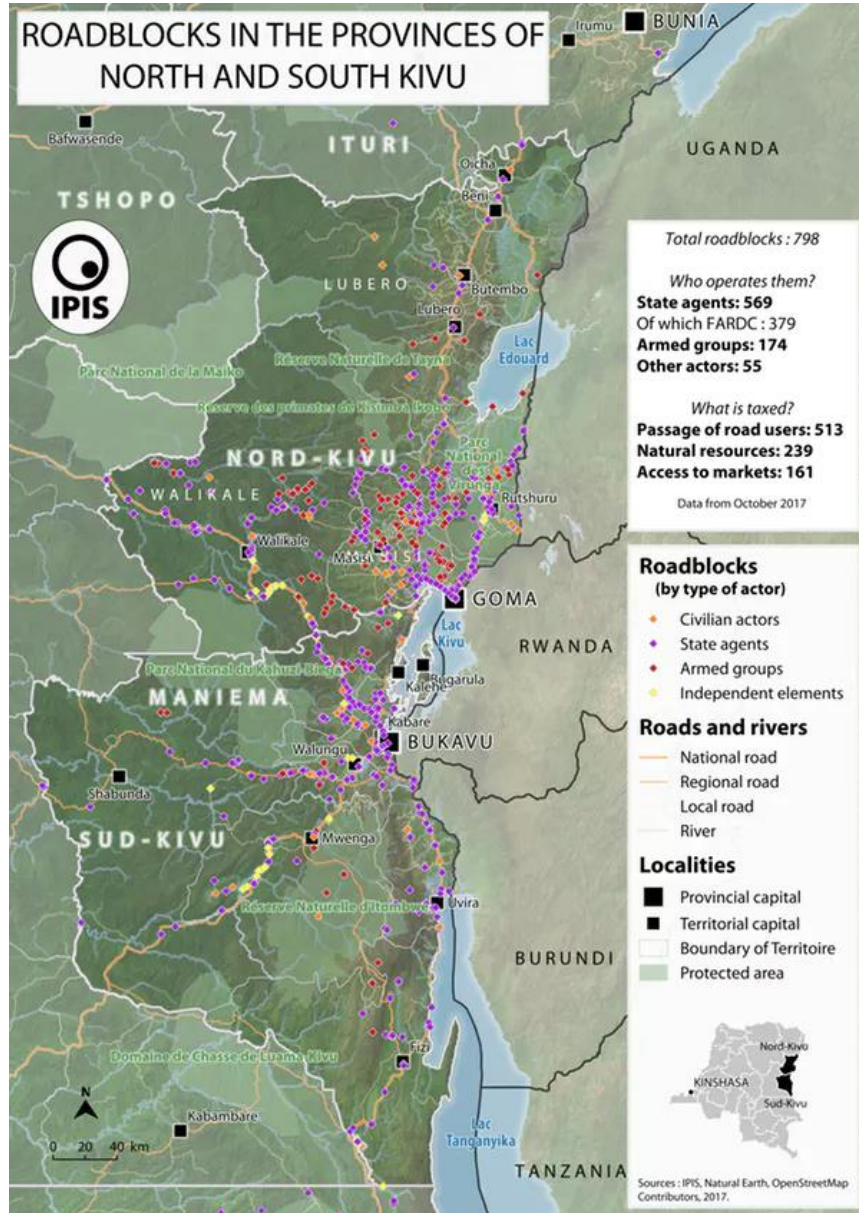
↔ 金鉱山は4割



暴力事件の規模



ロードブロック・エコノミー



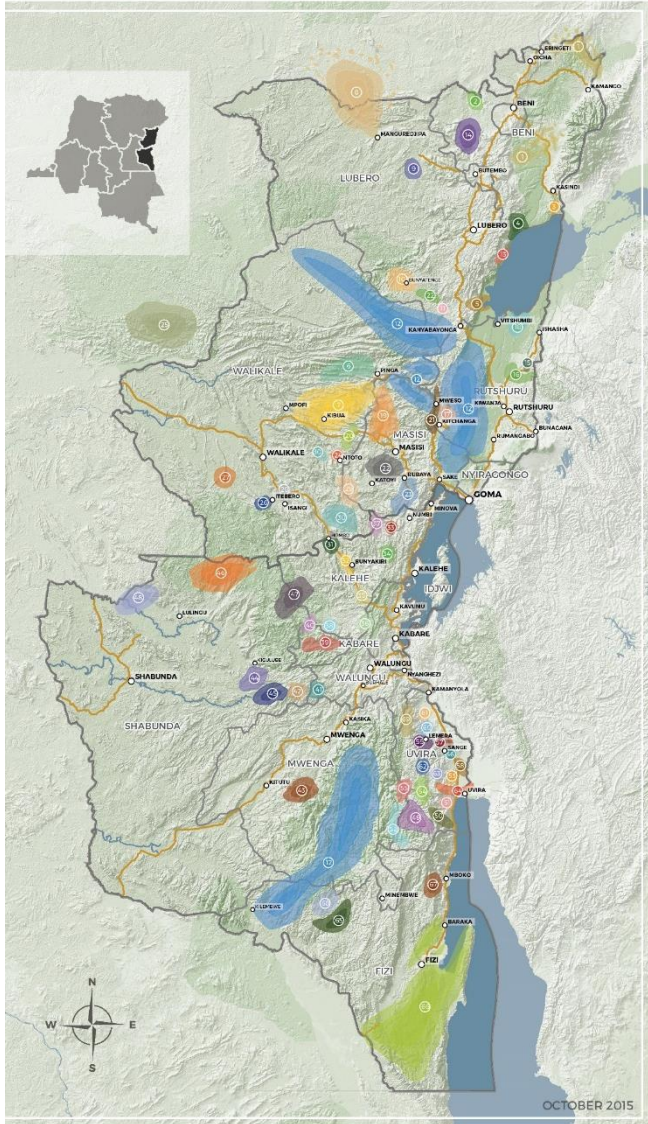
◆ 東部だけで798か所

- 政府系：569
(国軍：379)
- 武装勢力：174
- その他：55

◆ 「課税」対象

- 道路使用：513
- 資源輸送：239
- 市場へのアクセス：161

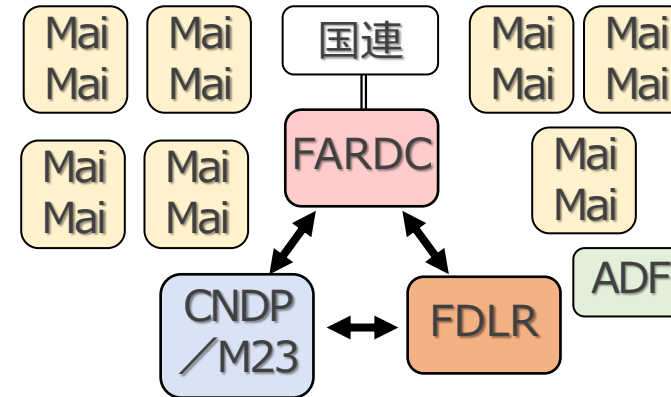
紛争主体の数の増加



- ADF
- FOLC-Kandanga
- Kasindiens
- Mayi-Mayi Nguru
- MPLC
- NDC-Sheka
- NDC-Guidon
- Mayi Mayi Manu (ex-Morgan)
- FDK
- UPCP-Lafontaine
- UPCP-Damaceni
- FDLR-FOCA
- Mayi-Mayi PRM/PAREM
- Mayi-Mayi Vurundo
- Kambale group (ex-Soki)
- FDLR-RUD
- Nyatura-Domi (ex-Muchoma/Vutura)
- AFAPRM Mayi Mayi Charles (ex-Shetani)
- APCLS
- FDC-Guides
- Nyatura-FDDH
- Nyatura-Delta
- Nyatura-Kalume
- MAC
- Mayi Mayi Simba Kachimuka
- Raia Mutomboki Akilo
- Raia Mutomboki Mirage
- Raia Mutomboki Elenge
- Mayi-Mayi Kifuafua Limenzi
- Mayi-Mayi Kifuafua Delphin
- Raia Mutomboki Shukuru
- Raia Mutomboki Hamakombo
- Raia Mutomboki Musole
- Raia Mutomboki Butachibera
- Raia Mutomboki Mweeke
- Raia Mutomboki Imani Bitaa
- Mayi-Mayi Kirikicho
- Raia Mutomboki Blaise
- Raia Mutomboki Lukoba
- Raia Mutomboki Kashungushungu
- Raia Mutomboki Maheshe
- Raia Mutomboki Ndarumanga
- Mayi-Mayi Nyakillba
- Raia Mutomboki Mabala
- Raia Mutomboki Makombo
- Raia Mutomboki Takulengwe
- Raia Mutomboki Donat/Ngandu
- Raia Mutomboki Kazimoto (ex-Kikuni)
- Nyamusharaba (ex-Tawimbi)
- Mayi-Mayi Toto
- Mayi-Mayi Fujo
- LDF Hauts Plateaux
- Mayi-Mayi Nyerere
- Mayi-Mayi Mushombe
- Mayi-Mayi Mahoro
- Mayi-Mayi Simusizi
- Mayi-Mayi Gere-Kilolo
- LDF Intervention
- LDF Moliere
- LDF Mahinduzi
- LDF Santos
- LDF Kashumba
- FNI-Nzabampema
- Mayi-Mayi Mulumba
- Mayi-Mayi Yakutumba
- Mayi-Mayi Bwasakala/Reunion (FPC)
- Mayi-Mayi MDLC (Chochi/Venga)
- Rushombo Group

紛争主体70以上

- FARDC (コンゴ国軍)
- FDLR (ルワンダ・フツ系)
- CNDP/M23 (ルワンダ・ツチ系)
- ADF (ウガンダ系)
- Mai Mai (地域の自衛集団)



An essay explaining key trends in armed mobilization and our methodology can be found at www.congoresearchgroup.org and www.christophvogel.net

研究成果の公開と議論

5月	東京でのセミナー開催	12月	ノーベル平和賞授賞イベント出席
9月	ベルギーでの国際会議開催		『女を修理する男』上映会
10月	ムクウェゲ医師ノーベル平和賞受賞に関する記者会見	1月	東京でのセミナー開催
11月	フランス語書籍出版		<ul style="list-style-type: none"> ・ 関連論文4本 ・ 招待講演12回 ・ WEB発信の強化 ・ メディア記事4本 ・ インタビュー多数

2018年5月
コンゴ人実務家の
来日講演会



2018年9月
ブリュッセル
「コンゴの経済発展
における組織の役割」



2018年12月
ノーベル平和賞
授賞イベント



2019年1月
ノーベル平和賞記念
フォーラム
「コンゴの課題を考える」



研究成果の発信



▲朝日新聞2018年10月7日



▲婦人公論2019年2月号



▲ニコニコ動画2019年2月1日



▲岩波『世界』2019年3月号



▲JICA地球ひろば上映会



▲WEBでの情報発信

2019年度の調査研究計画：ガバナンスに注目

◆研究方法

- (1) 文献調査 ➤ 既存研究、現地・欧米・日本のメディア、NGO、国連報告書の分析
- (2) 統計調査 ➤ 各種統計データの分析
- (3) 聞き取り調査
 - **ウガンダの鉱物認証機関**（華井）
 - **コンゴ東部から周辺国に逃れた市民（難民）**（米川）
 - **ムクウェゲ医師**（マスワナ）

◆研究成果の共有と貢献

- (1) **コンゴ人研究者・実務家に研究結果を共有**
 - ➡ 解決への道筋を当事者と一緒に模索
- (2) **日本の政府、企業、市民に研究結果を共有**
 - ➡ 消費国・援助国として責任ある行動をとるための提言を行う

ご支援ありがとうございます

